

# 清川歴史公園かわら版

## 清川を歩き来したと思われる歴史上の人々

### 清川は諸文化が交差する結節点

平安時代	鎌倉時代	室町時代 南北朝時代	安土・桃山時代	江戸時代	明治時代	大正時代	昭和時代	時代
一一八七	一一九〇	一三四八	一五九〇	一六〇三 一六八九 一七八七	一八六八 一八四六 一七八七	一八八九 一八九三	一九六三	年
源義経(武将)・武蔵坊弁慶(僧衆)	徳尼公(藤原秀衡の妹「徳の前」あるいは後妻「泉の方」)	北畠顕信(南朝方の鎮守府將軍・立谷沢城に拠する)	大谷吉継(中央官僚・庄内の太閤検地に参加、指導)	最上義光(出羽山形藩藩主)・北館大学(狩川城主) 上杉景勝(米沢藩初代藩主)・直江兼統(米沢藩家老)	桂 太郎(戊辰戦争 清川口の戦い) 藤本鉄石(書画家・清河八郎と交流あり) 古川古松軒(地理学者・幕府の巡見使)	高橋泥舟(幕臣・清河八郎の同志) 明治天皇(東北巡幸)・大隈重信・大木喬任(天皇随行者) 三島通庸(山形県令・下記の中学校、磐根新道に携わる)	柴田鍊三郎(作家・清河八郎の親族)	人物
<p>清川のできごと</p> <p>清川役場建設 電灯整備・郵便局開局 陸羽西線開通 清川・鶴岡定期バス運行</p> <p>「清川に東田川郡中学校開校 磐根新道開通(清川古口間)」</p> <p>庄内藩清川関所設置 北楯大堰開削</p>								清川のできごと

発行所  
清川歴史公園  
管理運営委員会  
連絡先  
庄内町商工観光課  
立川地域観光振興係

清川歴史公園管理運営委員会では、食堂・売店・ガイドなどに協力いただける方、一緒に地域を盛り上げていただける方を募集しています。役場商工観光課までぜひお声がけください。  
連絡先 〇二三四五六・二二二三

京都、大阪、蝦夷地との交流の多くは日本海から最上川をのぼり、内陸への出入り口として清川を通るため、清川は内陸と外の諸文化が交差する結節点でした。  
宿場町だった清川には、様々な人が訪れました。  
さらに清川は、山や川の景色が美しい「山紫水明の地」として古くから世に知られ、史蹟にも富み、文人墨客の来訪が多かったと言われています。

### 写真で振り返る清川の歴史

#### 【清川スキー場】

町営として開設されたのは一九六六(昭和四十一)年でしたが、その前から地区ではスキー場として運営していました。滑走式リフト(ロープ)が二つあり、スキー大会も開催されていました。

スキー場が少なかった当時は、庄内各地から多くのスキーヤーが集まり、スポーツ人口も増加していきました。眼下に最上川を望む、この地ならではの絶景スキー場でした。



清川スキー場 1963(昭和 38)年ころ



多くのスキーヤーでにぎわう清川スキー場全景 1963(昭和 38)年ころ (「写真でみる清川の歴史」より)

# 世界かんがい施設遺産「北楯大堰」

～平成の名水百選 立谷沢川を水源とし、清川に流れ込む大堰～



北館大学助利長公像



北楯大堰(清川地内)



大堰整備後、約 5000ha が開田した庄内平野

山形県内初登録  
「世界かんがい施設遺産」とは

建設から一〇〇年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したものの、卓越した技術により建設されたもの等、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設として国際かんがい排水委員会 (ICID) が認定・登録するものです。北楯大堰は平成三十年八月十四日に登録されました。

## 北楯大堰の概要

全国有数の米どころで知られる立川、余目地区は、一六〇〇年頃まで、扇状地の平坦な地形でありながら河川より標高が高かったため、水が引けない不毛の土地でした。困窮する領民を救うために、狩川城主の北館大学助利長公は十年にも渡る新田開発調査の末、山を隔てた立谷沢川から水を引く無謀ともいわれた農業用水路の開削工事に着手しました。高精度の測量技術や正確で綿密な設計、そして一日約七四〇〇人の作業員の動員などにより、四ヶ月という短期間で約一〇kmの水路を完成させたと伝えられています。その後水路整備は進められ、新たな田や集落が誕生して地域は活性化しました。北楯大堰は今も現役の水路として米どころ庄内平野を潤し、豊かな生活の礎を築いています。

## 【街歩き③】青鞍之淵 石碑

北楯大堰の整備が進み、開削工事が最も困難な箇所差しかかった時、最上川が氾濫し、掘り削っても埋まり、埋めても流され、工事ははかどりませんでした。北館大学助利長公は「これは川の神が工事を喜ばないからだ、なんとか神意を慰めよう。」と、金銀・螺鈿の装飾(青貝摺※)をほどこした自分の馬の鞍を、最上川の渦巻く淵に投げ入れました。すると、不思議なことにたちまち流れが静まったのです。それ以降、無事に工事が進められたと伝えられています。

※青貝摺(あおがいずり) 貝殻の表層をとり去り真珠層を出し、これを短冊形に切つて磨いた摺貝(ずりがい)とし、これを張り合わせて文様を描く。青貝細工ともいう。



青鞍之淵 石碑

昭和 14 年 (1939) に、当時の難工事を偲び最上川土地改良区が石碑を建立しました。

## 歴史公園整備状況

今年三月下旬の完成に向けて、整備が進められています。現在は内部の配管などの設備を整備しています。最上川を臨む船見番所も姿を現し、雪解けとともに看板などの設置作業も始まる予定です。

清川歴史公園管理運営委員会では、設置される看板の内容検討や、清川まち歩き観光コースの設定、お食事処の運営方法についてなど、話し合いを重ねています。四月下旬のオープンページ開設など、詳細決定次第、皆様に改めてお知らせいたします。



清川歴史公園整備状況 2019 年 1 月 9 日現在